



F 電 鎮
A 話 座
X 地

秋田市新屋日吉町一〇番六七号
〇一八八二八三〇三三
〇一八八二八三〇三七

日吉神社由緒書



元旦初詣風景



頭人のお差鉾奉仕

日吉神社の杜(もり)は秋田市南西部における随一の大きな広葉樹の杜である。約九千坪(二万五千平米)の境内の中にケヤキの大木は五十本に及ぶ。中小木を併せると二百本は下らない。そのほか、杉や松、樅などの針葉樹の大木の他、イタヤカエデ、ニセアカシアや椿、モミジなどの中高木、ツツジ、アジサイ等の花木、低木も多い。

境内に棲息する小動物は、ムササビ、リス等の哺乳類。季節によって飛来する鳥も少なくない。春先のアカゲラ、鶯、アオバズク、コノハズク、フクロウ、初夏の郭公、夏の夜のヨタカ、ツツドリ、冬のヒヨドリ等の声や姿は、貴重な自然の贈り物である。

各町内会が仕立てた船に各家々から子供等が持ち寄った鹿嶋太鼓の音と「ショッショッショ」の囃言葉も高らかにねり歩き川に流す行事である。



鹿嶋舟

山王祭宵宮祭 5月25日
のお差鉾祭は祭事の中
心となる「頭人(とう
にん)」が神格化した
お差鉾をささげ、翌26
日の神輿のおくねりの
為に、町内を祓ってま
わる行事である。

例祭日

山王祭

五月二十六日

鹿嶋流し

六月第二日曜

祈年祭

四月十三日

新嘗祭

十一月二十六日

御祭神

大山咋大神

積羽八重事代主大神

大物主大神

崇徳天皇

大穴遅大神

(大国主命)

少彦名命

宇迦之御魂大神

大宮乃売命

三吉大神

底筒男命

中筒男命

表筒男命

建御名方大神

八坂刀女命

息長足比売命

(神功皇后)

猿田彦命

天満天神

日吉神社は、山王杜といわれ、大同元年(西暦八〇六年)由利郡勝平山の麓(新屋は古く「ももさだ」と呼ばれ、もと由利郡に属し、後に河辺郡、さらに昭和十六年秋田市に合併した)に鎮座したと伝えられる。その後新屋町の東南方凡そ五町の地―字田中屋敷(現一本木跡地)に移り、永治元年(一一四一)現在の地に遷座したと言われる。

その御神体は、江州(近江国・滋賀県)大津の坂本にある旧官幣大社日吉神社の御神体を作った余材であり千載の遺物であると伝えられる。よって古くより近江坂本の別社と称していた。

その昔平泉の奥州藤原氏の郎党で、のち源頼朝に仕えた由利維平がこの地を所領した時七千刈の社領を寄進したという。その後赤尾津光喜が由利郡を領有したが、同様に七千刈を受けた。

慶長の末(一六一五頃)になって赤尾津氏が滅び最上義光が領有するようになった。社領はことごとく没収され、社頭もさびれた。これを憂いた赤尾津氏の遺臣小野金助守就は、楯岡豊前守満茂に陳情し、社殿の修復を許されたうえに二千刈の寄進を受けた。元和八年(一六二二)領地引き換えにより佐竹氏の領地となつてからは、粟米三石五斗を受けている。寛文九年(一六六九)に社殿が造営されたのを始め、歴代の領主により社殿が建立されている。

明治維新以降は社領が廃止されたが、古来代々領主の崇敬厚き故をもつて明治五年郷社に列せられ、明治一二年一〇月二〇日県社に昇格した。明治二八年三月一日社殿から出火。御神体、朱佛丸(由利維平奉納の神鏡)、社殿悉く焼失した。直ちに仮殿を新築し、明治三三年官祭招魂社の絵馬堂を購求し、大正六年になつて漸く本殿が新築になり、昭和一五年幣殿が増築された。昭和四二年には回廊が、四四年には社務所が新築された。